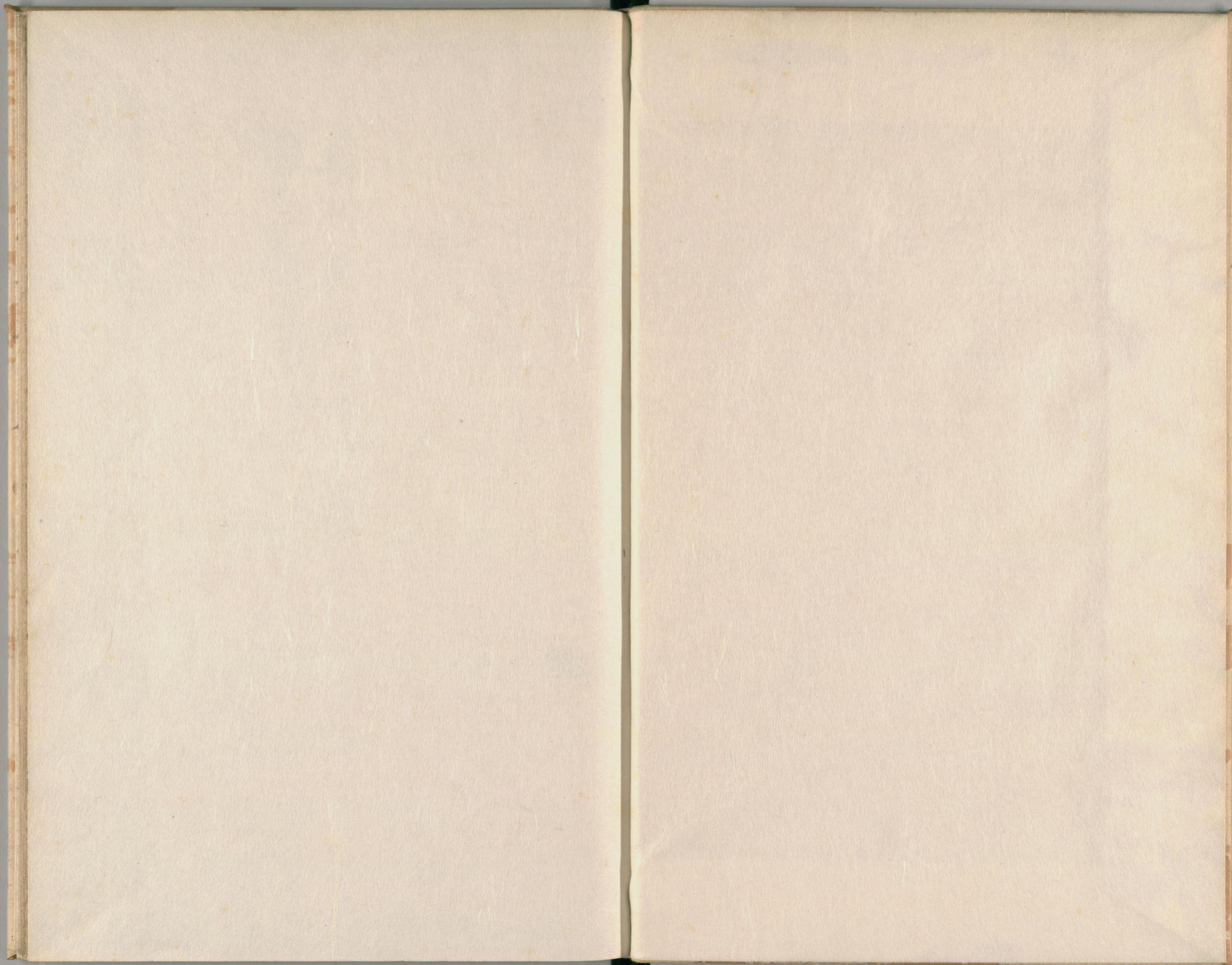


863  
13

長州君侯より臣下へ布告同表上之寫







国立国会図書館 タイトル『長州君侯より臣下へ布告同表上之写』 請求記号 863-13

ガラス使用



863  
13

長州君侯より臣下へ布告  
同表上之写







長州君侯より臣下へ布告同表上之写  
 我日本も 天津日嗣之知命大徳國より  
 一と此中へ生るる物皆之民あり之民  
 自然上之分あり 又臣別あり我厚長  
 二物を預り領し 汝等と又長たりと能  
 其本を均く 天子之御民あり汝等能  
 我事をも之能 天朝へ事をも之能  
 能く事くざる能 之能事く事ら  
 ざるし吾等一能 天朝へ事く事ら  
 汝も我を補導運之能 天朝へ





事下りむらひ申す職あり業あり同極を  
天朝之為を以て之を率ふ  
天朝に為す所を以て外を以て之を觀  
其れを以て正身有職者之と仰る  
其職者之に及ぶ時を以て力内旋  
天朝之事を以て之を率ふ此其  
職者之に及ぶ時を以て力内旋  
力を以て之を率ふ又各其業を以て  
業之始を以て之を率ふ其業之  
ありて之を率ふ外を以て之を率ふ

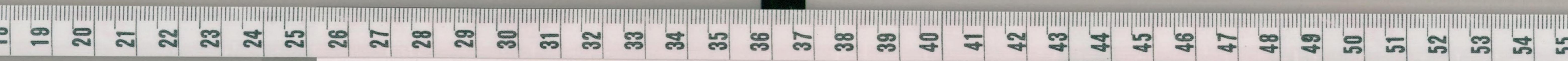
戊午之變とあり天朝之人勸搖致し  
上之を率ふを以て之を率ふ  
此其業之に及ぶ時を以て力内旋  
幕府有之職缺の時を以て之を率ふ  
天朝之決あるは  
皇國之民を以て之を率ふ  
事能はるる時を以て之を率ふ  
あり然るに天朝に力節業あり信義  
其業之に及ぶ時を以て力内旋  
其業之に及ぶ時を以て力内旋  
其業之に及ぶ時を以て力内旋





西等の人々布告に汝凡人莫識有知者  
深く吾意を告るを悦ぶ決心は力に盡  
すこと上下に貫徹し官民に御旨を  
示し和を揚せしむべき也 敵は忠を大樹公  
上洛を乞ふる吾の宿志始む事し天下に  
面目此事し以て攘夷の限に相違なく  
吾等先鋒の人得るも手始めに  
此事 天朝宗廟に赤心を奉るは  
積之憂慮を後世勅有之 敵を  
跼蹐致すも實に之を痛矣固く 大樹公

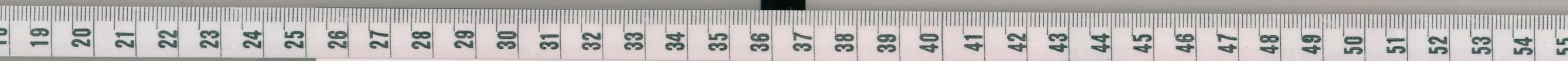
有るものごとくは汝も執政に忠誠を盡すものより  
又 官民に離間を生じしもの之を痛矣吾  
等も吾等深く是を憂ふ事をしては物情  
阿ふ事をして是を憂ふ事をしては物情  
割 志すも其の如くは 敵を討つに志すも  
其の如くは 敵を討つに志すも  
憤然として其の如くは 敵を討つに志すも  
其の如くは 敵を討つに志すも  
吾等も 天朝に忠を盡すも 起す事し  
吾等も 天朝に忠を盡すも 起す事し





なり吾義又家初より定を決し其年故  
二州を 三州を西為め何れ振成は是  
能は力に之職に北月積して其有る吾  
信をきり今又論方別とて其の處者  
孫吾を不姑加之世道に為る前日京師大受  
とれ其家子吾を識其果は路て是又  
吾精神に是者處あり人を恨む處あり  
能す其意天に人吾を急むるを尤し  
年一なる然交油等の中より其は其  
吾を急むる其黨誤を生じ事一誤を  
其

畏之至と其考の併に其見誤ありに  
能す其意吾を急むる其は其  
吾を急むる吾職を其急むる其也  
元其二州之勢其急むる其力改し其  
早急 皇西に民多其急むる其  
不以其急むる吾を急むる其也  
之第を求む其 其急むる其也  
二州を其急むる其急むる其也  
其急むる其急むる其急むる其也  
其急むる其急むる其急むる其也  
其急むる其急むる其急むる其也





今一層激しく出立を益々界線  
と知る如く此の事又お在り共ニ妙々  
与之に宜しと考へ旅を二妙ハ相違なき  
列藩共道々外夷之者ニ年以て服  
之事ニハ況ニ妙ハ何程お成り  
亦さし年程ありと宜しと心  
甚以れ少考へ共又只今一  
退りしを逆賊を誅を強り二妙  
以之に退り強

此不能と勉者一今日吾を愛する人我  
推し吾を憐れ各生歳を以て  
一之方人心を二妙一國ハ大義  
と我皇皇を確守するに足るく  
夫ら二妙傾敗を来し共御先  
の愧事一善身御君長ハ大義  
の白一善身御君長ハ大義  
右節凜然と出立ハ一善身御君長ハ大義  
お立ハ一善身御君長ハ大義  
皇國を民た君長ハ大義





存自の事始る事無きもの我亦下知す是  
證ありとお書きし

別紙

敵高しふら何に力なすも昔秋中彼は  
色く冠難いし今より揚名に得たり  
右節確ちしもの更には言を先  
買例に忠を陳す、御國の威を  
減し意を播敷る方切を朱一  
家禮と決らん事、めい事始るお守り

遂に公の本懐多るべし

癸九月

右女通を宰相由基久三、癸九月  
朔日、長州萩高山西殿におりて、臣下に  
書下すお書き





表上之写

謹白奉養聞旨趣令更隆事一舊以人心感  
此之時臣四海勅揚之危憂聊不之忘於豫  
以抑者今 聖帝所之御勇氣家深  
衣束接衣之にお徳 家禮所之御出  
敷高之類之、魚之而美也然之能病物曲  
官人高勢之英氣、其怖  
新亦之程能中偽り出之條、為西智程  
之能給、其眉を字、向然之四鞆利、他  
不顔、後難其、所持、身、為改、上、慎  
只、今、之、本、國、之、民、之、所、詔、意、折、用、之、始



勅令を専利欲に改勢を故に造る意我之為  
節を以て砕心臨法民之新儀を成るに厚  
管意物命於國家始終之節為節達中  
節の如く長義士を以て或は押籠成を  
生捕或は後自取證に以て之を同吉好又  
を引立夫に後交中身松田を補助に其意  
大野之看小人位に其の時節國是を以て  
祿に附國年造の時を祿に以て一取取之と  
之禁誠力を以て之を強固に以て義心に  
増月之節り之を以て集り彼處に此の勅令

揚義兵を勅擡る時無止時是令天下  
歌ありん國家の如く味方や物也を  
水長両家之針糸杯とあり其の事  
周章疑惑に至る如く在り其の  
素一之に當りて山賊海賊等之異心  
其の如く當りて構本具兵器を携へ強盜  
押籠成の如く王家に為るを以て  
重賞に之を以て節の中威し世人を以て  
且之を後長節杯と以て名を以て押歩り  
以て族も其の分りて其の趣を以て奉承以て



不遠既年 松家追討之偏有正与諸部  
之讎敵之系壽隆之云右臣却而刑也  
其何之取勢是以云據以守之隆然以我  
以逆之降り 於我而泥ふ我外危人を重  
鉄之かく免 隆之追討使に大軍を引誘  
う但家逆に於年戦や者家之滅之を天  
下之衰榮 國家強弱之根素に万一免  
萬死之危難は尚城士卒之安素を  
神國之威光未廢去之瑞慶四海海陸  
之吉此之而神の擁護之由復形多也



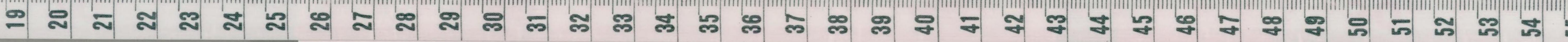
從昔 神祇西帝之御遺勅を廢し  
近く東恩神君之御遺訓を悖りて其  
今上尊前より御成子より之を奉養せしめ  
永久に安規を期す 帝位を尊人  
既之に屬す 富貴之を變海内之海陸神  
慮七女何と痛交好交好交好交好交好  
而病男之也 古語曰 帝王山にうら  
再三諫む以て免之 王位を備へる人ハ  
是也 隆之 聖王代に 帝王は海  
内人高智歎山川草木皆物之主也





向くは人々言果定むるは風雨時ありては教  
熟するは賢者月進之云りて國是形なるは夫  
直くは人々諫言して賢將之陣を大君  
と海内無雙の大樹と國と大之や  
下を別枝葉や大樹枝葉を生一枝葉  
大樹を根に元是同根之結縁相續  
補也一君臣並に業も夫と一臣  
懐之臣たる老を君を若く禮を  
方を懐く心は若く一厚信之誅は善  
漢の四海若く國民快楽之仁政を施す

事賢將義臣に本懐や唯能君に親  
法の中は義厚成るは力も子一國と思ふ事  
是言を蒙る可なり其非り知るは  
送忠送孝也却而不力も孝や何り高  
家算者より利を以て天下を平治するは  
有つや萬く此理を以て君を諫め  
向今前非を改革して速く其誠退き  
台名を以て之強而弱は生る不二人は法家  
其言を以て之誅戮し之を敢て拒之は  
其徳を以て之を身は悦ぶ勇を以て之を亦抱念





863  
13

6593

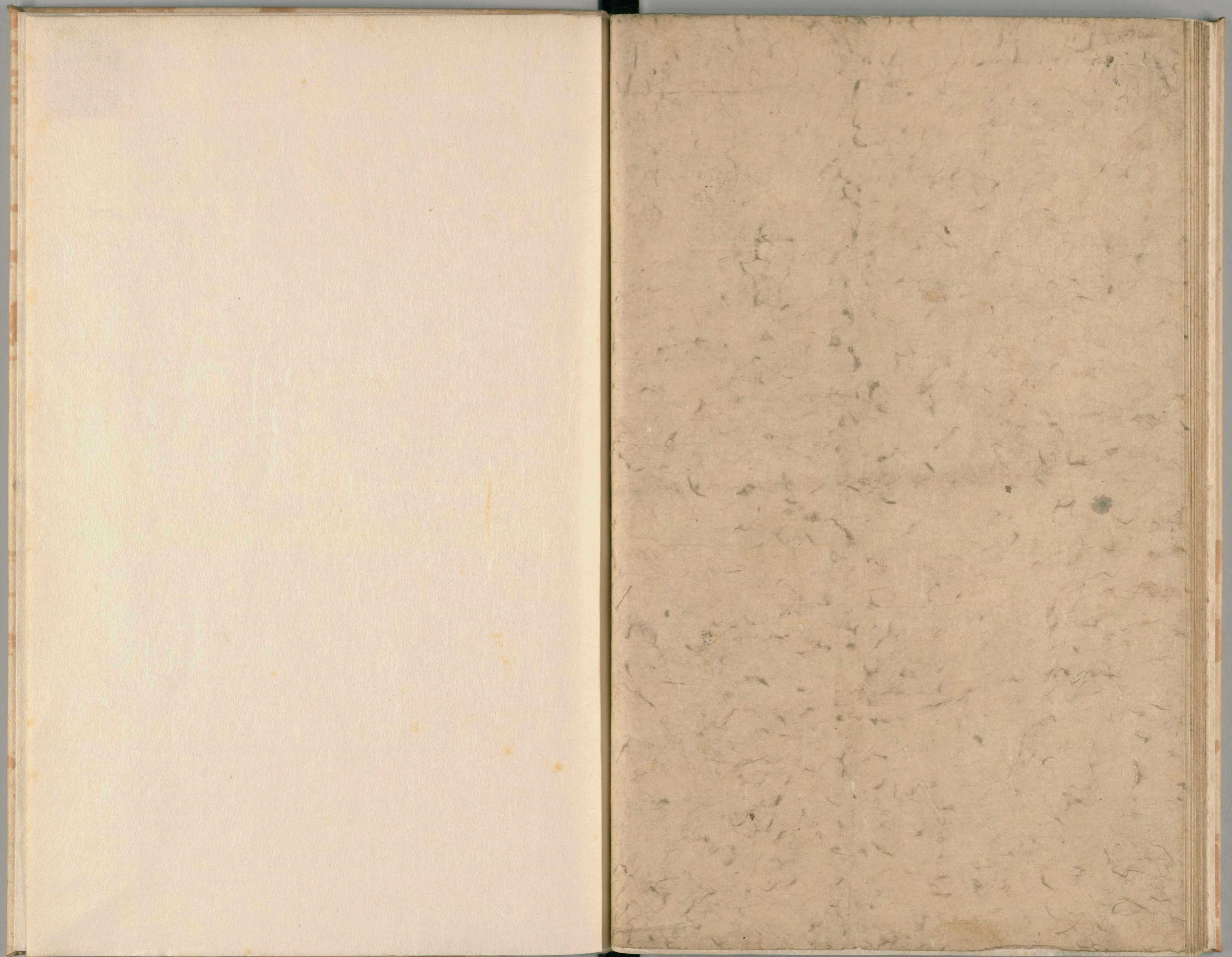
於國君之精兵招作一て来りて其  
其地之元海して血戦費炮十死之難  
既りて物と其無二無三て其入切  
身之群械を度言に四海之庶民を  
國土之衆平を留りて眼を以て  
其安聊以て其難は始首を造りて  
重而乞ひ其之条依りて

之路之年七月日

表上

大膳致白  
供前福京越後



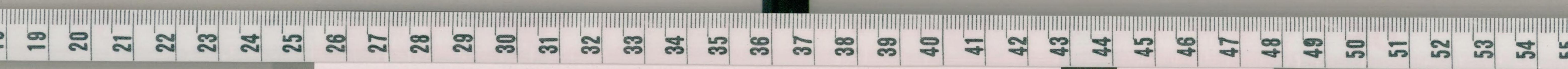


国立国会図書館 タイトル『長州君侯より臣下へ布告同表上之写』 請求記号 863-13

ガラス使用



863  
13



国立国会図書館 タイトル『長州君侯より臣下へ布告同表上之写』 請求記号 863-13

ガラス使用





国立国会図書館 タイトル『長州君侯より臣下へ布告同表上之写』 請求記号 863-13

ガラス使用